

「あなたたちは聖なる人でなければならない」

「何をするにしても聖なる人であってください」。[ペテロ第一 1:15](#)

34 番の歌 高潔さを捨てずに歩む

何を学ぶか*私たちはエホバを心から愛していて、エホバに喜んでいただきたいと思っています。エホバは聖なる方で、ご自分を崇拜する者たちも聖なる者であってほしい、と思っています。でも、不完全な人間が聖なる人になることなどできるのでしょうか。できます。では、何をするにしても聖なる人であるために、何ができますか。ペテロが仲間のクリスチャンに与えたアドバイスや、エホバが古代のイスラエル人に与えた指示をよく調べてみましょう。

1. ペテロは仲間のクリスチャンにどんなアドバイスを与えましたか。②そのアドバイスを実践するのが難しく思えるかもしれませんのはなぜですか。

ペテロが天に行くよう選ばれた1世紀のクリスチャンに与えたアドバイスは、天で生きる希望を持つ人にも、地上で生きる希望を持つ人にも役立ちます。ペテロはこう言いました。「皆さんを招いた聖なる方のように、何をするにしても聖なる人であってください。『あなたたちは聖なる人でなければならない。私は聖なる者だからである』と書かれているからです」。(ペテー 1:15, 16) 皆さんを招いた聖なる方のように、何をするにしても聖なる人であってください。16 「あなたたちは聖なる人でなければならない。私は聖なる者だからである」と書かれているからです) ペテロの言葉から、神聖さの最高の手本であるエホバに私たちが倣える、ということが分かります。私たちは聖なる人になることができますし、そうなる必要があるのです。②とはいって、不完全な人間が聖なる人になることなどできない、と思うかもしれません。ペテロもさまざま失敗をしました。でも、ペテロの例について考えると、私たちも「聖なる人」になれるということが分かります。

2. この記事ではどんな質問を考えますか。

2 この記事では次の質問を考えます。①聖なる人であるとはどういうことですか。②聖書はエホバの神聖さについてどんなことを教えていますか。③私たちはどうすれば聖なる人になれますか。④聖なる人であることとエホバとの絆には、どんな関わりがありますか。

①聖なる人であるとはどういうことか

3. 多くの人は聖なる人と聞くと、どんな人を思い浮かべるかもしれませんか。どうすれば正しい理解を得られますか。

3 多くの人は聖なる人と聞くと、特別な服を着て信心深げな顔をしている宗教家のことを思い浮かべるかもしれません。しかし、それは正しい理解ではありません。聖なる方エホバは「幸福な神」であり、エホバに仕える人たちは「幸せ」である、と述べられているからです。(テモ一 1:11) その教えは幸福な神の素晴らしい良い知らせと一致しており、私はその良い知らせを託されました。詩

144:15 このようになる民は幸せです！エホバを神とする民は幸せです！) イエスは、目立つ服を着て人に見せようとして良いことを行う人たちのことを非難しました。 (マタ 6:1 注目されようとして人前で善行をすることがないように注意しなさい。そうでないと、天にいる父からの報いはありません。マル 12:38 イエスは教えてている時に、こう言った。「律法学者たちに気を付けなさい。この人たちは長い服を着て歩き回ることや、広場でいさつされることを望み、) 真のクリスチヤンである私たちは、聖書が教えていることに基づいて、聖なる者であるとはどういうことかを理解する必要があります。聖なる方であり愛情深いエホバは、私たちに無理なことを求めたりはしません。ですから、エホバが「あなたたちは聖なる人でなければならない」と言っているのであれば、私たちは聖なる人になることができるのです。でもまずは、聖なる人であるとはどういうことかを理解する必要があります。

4. 「聖なる」や「神聖さ」という言葉にはどんな意味がありますか。

4 聖なる人であるとはどういうことでしょうか。聖書では、「聖なる」や「神聖さ」という言葉は、道徳的また宗教的に清いことを意味しています。また、エホバへの奉仕のために取り分けられていることも指します。ですから、道徳的に清い状態を保ち、エホバに受け入れられる崇拜を捧げ、エホバとの強い絆を保つなら、聖なる人であることができるのです。聖書によれば、エホバは最高に聖なる方です。そのことを考えると、不完全な私たちがエホバとの絆を持てるというのは、本当にすごいことではないでしょうか。

② 「聖なる方、聖なる方、聖なる方、……エホバ」

5. 忠実な天使たちから、エホバについてどんなことが分かりますか。

5 エホバは、あらゆる面で清く、汚れのない方です。エホバの王座の近くで仕えているセラフたちは、こう語りました。「聖なる方、聖なる方、聖なる方、大軍を率いるエホバ」。(イザ 6:3 互いにこう言っていた。「聖なる方、聖なる方、聖なる方、大軍を率いるエホバ。全世界にその方の栄光が満ちている」) 聖なる神であるエホバとの親しい関係を持つには、天使たちも聖なる者である必要があります。そして、天使たちは実際に聖なる者です。それで、地球上で天使たちが現れた場所が聖なる場所と呼ばれることがありました。例えば、モーセが燃えるいばらの木を見た場所がそうです。(出 3:2-5 その時、エホバの天使が、いばらの木で燃える炎のうちに彼に現れた。モーセが見ていると、いばらの木は燃えているのに、燃え尽きなかった。3 そこでモーセは言った。「なぜいばらの木が燃えてしまわないのか、近くに行ってこの不思議な現象を調べてみよう」。4 エホバは、モーセが調べようとして近づいたのを見て、いばらの木から呼び掛け、「モーセ、モーセ」と言った。モーセは、「はい、ここにあります」と言った。5 すると神は言った。「それ以上近づいてはいけない。サンダルを脱ぎなさい。あなたが立っているのは聖なる場所だからだ」。ヨシュ 5:15 エホバの軍の長はヨシュアに言った。「サンダルを脱ぎなさい。あなたが立っているのは聖なる場所だからです」。すぐにヨシュアはそうした)



大祭司のターバンに付けられた金の板には、「神聖さはエホバのもの」と記されていた。(6-7節を参照。)

6-7. (ア) 出エジプト記 15 章 1, 11 節によると、モーセは神の神聖さをどのように強調しましたか。(イ) 全てのイスラエル人は、神が聖なる方であることをどのようにして知りましたか。(表紙の絵を参照。)

6 (ア) モーセはイスラエル人を導いて紅海を渡った後、エホバ神が聖なる方であることを強調しました。(出エジプト記 15:1) その時モーセとイスラエル人は、エホバに向かってこの歌を歌った。「私はエホバに向かって歌う。神は輝かしい勝利を収めた。馬と乗り手を海に投げ入れた、11 エホバ、神々の中に、あなたのような方が誰かいるでしょうか。極めて聖なるあなたのような方が誰かいるでしょうか。賛美の歌によってあがめるべき方、不思議なことを行う方を読む。) 偽の神々に対するエジプト人の崇拜行為は、清さとは懸け離れたものでした。カナン人の崇拜も同じでした。その崇拜には、子供を犠牲として捧げることや、堕落した性行為が含まれていました。(レビ 18:3, 4) あなたたちが住んでいたエジプトの人たちのように行動してはならない。また、私があなたたちを連れていくカナン地方の人たちがすることをしてはならない。彼らの法令に従ってはならない。4 私の法規を実行し、私の法令を守り、それに従うべきである。私はあなたたちの神エホバである、21-24 あなたの子がモレクに捧げられる(*犠牲にされる)ようなことを許してはならない。あなたの神の名をそのようにして汚してはならない。私はエホバである。22 女性と寝るようにして男性と寝てはならない。それは忌まわしい行為である。23 男性は動物と性交をして、汚れた人となってはならない。女性も動物の所に行つて性交をしてはならない。それは自然に背くことである。24 このうちのどれによっても自分を汚してはならない。私があなたたちの前から追い払う国民はこの全てによって自分を汚してきたのである。申 18:9, 10 あなたの神エホバが与えてくださる土地に入った時、そこの国民の忌まわしい行いをまねてはなりません。10 あなたの中に以下のような人がいてはなりません。息子や娘を火で焼く(d*に火の中を通らせる)人、占いをする人、魔術を行う人、吉凶を判断する人、呪術師、) それに対して、エホバはご自分に仕える人たちに汚れたことを行うように求めたりは決してしませんでした。エホバは極めて聖なる方です。(イ) そのことは、大祭司のターバンに付けられた金の板に彫られた言葉から分かります。その板には、「神聖さはエホバのもの」と記されていました。(出 28:36-38) 輝く純金の板を作り、印章を彫るときのように、それに、『神聖さはエホバのもの』と彫らなければなりません。37 それを青ひもでターバンに固定する。ターバンの前面に来るよう

にする。 38 それはアロンの額の上に来る。アロンは、誰かが聖なるものに関して過ちを犯した場合、責任を負う。
イスラエル人が聖なる供え物として捧げる物に関する過ちである。民がエホバに認めてもらえるように、アロンの額
の上に常にその板がなければならない)

7 この金の板に彫られた言葉を見た人々は、エホバが本当に聖なる方であるということを理解しました。では、大祭司の近くに行ってこの言葉を見ることができなかつたイスラエル人は、この大切な真理を知ることができなかつたのでしょうか。そうではありません。イスラエル人の男性、女性、子供たち全てには、律法の書の朗読を聞く機会があつたからです。（申 31:9-12 モーセはこの律法を記し、祭司、レビ族、すなわちエホバの契約の箱を運ぶ人と、イスラエルの全ての長老に与えた。 10 モーセは彼らにこう命じた。「7年目ごとに、その免除の年の決められた時、仮小屋の祭りの間に、11 神が選んだ場所で、イスラエル全体がエホバ神の前に出る時、イスラエル全体が聞けるようにこの律法を読み上げるべきです。 12 民を、男性も、女性も、子供も、イスラエルの町にいる外国人居住者も集合させなさい。彼らが聞き、皆さんの中の神エホバについて学び、その方を畏れ、注意してこの律法の全ての言葉を実行するためです）あなたがその中にいたなら、次のような言葉を聞いたことでしょう。「私はあなたたちの神エホバである。……私は聖なる者なのだから、あなたたちも聖なる人でなければならぬ」。「あなたたちは私にとって聖なる人とならなければならぬ。私エホバは聖なる者だからである」。（レビ 11:44, 45 私はあなたたちの神エホバである。あなたたちは自分を神聖なものとし、聖なる人とならなければならぬ。私は聖なる者だからである。地面を行く小さな生き物によって自分を汚してはならない。 45 私はエホバであり、あなたたちをエジプトから連れ出し、あなたたちの神であることを示している。私は聖なる者なのだから、あなたたちも聖なる人でなければならぬ；20:7 あなたたちは自分を神聖なものとし、聖なる人とならなければならぬ。私はあなたたちの神エホバだからである、26 あなたたちは私にとって聖なる人とならなければならぬ。私エホバは聖なる者だからである。私は、あなたたちをほかの民とは別にして私のものとならせている）

8. レビ記 19 章 2 節とペテロ第一 1 章 14-16 節から、どんなことが分かりますか。

8 イスラエルの民全体が聞いた1つの言葉を考えてみましょう。レビ記 19 章 2 節「イスラエル人の民全体に告げなさい。『あなたたちは聖なる人であるべきである。あなたたちの神である私エホバは聖なる者だからである。エホバはモーセにこう言いました。「イスラエル人の民全体に告げなさい。『あなたたちは聖なる人であるべきである。あなたたちの神である私エホバは聖なる者だからである』』。ペテロはクリスチヤンに対して、「聖なる人であってください」と述べた時、この言葉を引用していたようです。（ペテロ第一 1:14-16 徒順な子供である皆さんは、無知だった時に抱いていた欲望によって形作られるのをやめ、15 皆さんを招いた聖なる方のように、何をするにしても聖なる人であってください。 16 「あなたたちは聖なる人でなければならぬ。私は聖なる者だからである」と書かれているからですを読む。）私たちはモーセの律法を守る必要はありません。それでも、ペテロが語った言葉から、レビ記 19 章 2 節にある通り、エホバが聖なる方であり、エホバを愛する人たちも聖なる人であるよう努力する必要があることが分かります。これは、天に行く希望を持つ人たちにも、地上の楽園で生きる希望を持つ人たちにも当てはまります。（ペテロ 1:4 朽ちることも色あせることもない、汚れのない財産を得られるようにしてくださいました。その財産は皆さんのために天に取っておかれていました。ペテロ 3:13 しかし、私たちが神の約束によって待ち望んでいる、新しい天と新しい地があります。そこには正しいことが行き渡ります）

③ 「何をするにしても聖なる人であってください」

9. レビ記 19 章からどんなことを学べますか。

9 私たちは、聖なる神であるエホバに喜んでいただきたいと思っています。それで、どうすれば聖なる人になれるかをぜひ知りたいと思います。エホバは、そのことに関するアドバイスを私たちに与えてくださっています。その幾つかがレビ記 19 章に収められています。ヘブライ語学者のマルクス・カーリッシュはこう述べています。「この章は、レビ記だけでなく、モーセ五書の中でも、最も包括的かつ多角的で重要な章であると言えるだろう」。レビ記 19 章の始めの部分には、「あなたたちは聖なる人であるべきである」と書かれています。そのことを思いに留めつつ、この章に収められている大切なアドバイスについて考えていきましょう。それは、私たちの毎日の生活に役立つものです。



どうすれば、レビ記 19 章 3 節にある通り、親を敬えるだろうか。（10-12 節を参照。）*

10-11. レビ記 19 章 3 節によると、私たちはどんなことを行う必要がありますか。そうすることが重要なのはなぜですか。

10 エホバは、イスラエル人に対して「あなたたちは聖なる人であるべきである」と言った後、「各自、母と父を敬いなさい。……私はあなたたちの神エホバである」と言いました。（レビ 19:2、3「イスラエル人の民全体に告げなさい。『あなたたちは聖なる人であるべきである。あなたたちの神である私エホバは聖なる者だからである。 3 各自、母と父を敬い(d*恐れ)なさい。また、私の安息日を守りなさい。私はあなたたちの神エホバである）

11 親を敬うようにという神からの命令に従うのは重要なことです。ある時イエスは、「永遠の命を得るには、どんな善いことをしなければなりませんか」と尋ねられて、すべきことの中に親を敬うことを含めました。（マタ 19:16-19さて、ある青年がイエスのもとに来て、言った。「先生、永遠の命

を得るには、どんな善いことをしなければなりませんか」。17 イエスは言った。「なぜ善いことについて私に尋ねるのですか。善い方はおひとりだけです。とはいえ、命を受けたいなら、**おきてを絶えず守りなさい**」。18 その青年は、「**どのおきてですか**」と言った。イエスは言った。「殺人をしてはならない。姦淫をしてはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。19 **父と母を敬いなさい**。隣人を自分自身のように愛さなければならぬ」）また、何とかして親の世話を逃れようとしていたパリサイ派の人たちや律法学者たちを非難しました。彼らは、そのようにして「**神の言葉を否定してい**」たのです。（マタ 15:3-6 イエスは答えた。「あなた方が自分たちの伝統によって神のおきてを破っているのはどうしてですか。4 例え、神は、『父と母を敬いなさい』、そして、『父や母に暴言を吐く(*を侮辱する/をののしる/を悪く言う)人は死刑にしなさい(*必ず死なせなさい)』と言いました。5 ところがあなた方は言います。『父や母に、「私の物でお役に立ちそうな物はどれも神に献納された供え物なのです」と言えば、6 父や母を敬わなくてよい』。そのようにして、自分たちの伝統によって神の言葉を否定しています）その「神の言葉」には、**十戒の5番目のおきてや、レビ記19章3節**の言葉が含まれていました。（出 20:12 父と母を敬いなさい。そうすれば、あなたの神エホバが与える土地で長く生きられる）再び考えたい点として、**母と父を敬うように**という**レビ記19章3節の命令**は、次の言葉の後に載せられています。「**あなたたちは聖なる人であるべきである。あなたたちの神である私エホバは聖なる者だからである**」。

12. レビ記19章3節の言葉を実行するために、どんなことを考えられますか。

12 エホバは**親を敬うよう私たちに命じています**。「**自分は、この点でどうだろうか**」と考えると、「**もっとしてあげられたかも**」と思うかもしれません。でも大切なのは、**これからどうするか**です。**今から頑張りましょう**。例え、**親と過ごす時間をもっと増やす**ことができるでしょうか。**親が必要としている物を買ってあげる**ことができますか。**エホバに仕え続ける**よう助けることができますか。**話をよく聞いてあげたり、褒め言葉を掛けたり**することができるでしょうか。こうしたことを行うなら、レビ記19章3節の言葉を実行していることになります。

13. (ア) レビ記19章3節には、ほかにもどんな命令が載せられていますか。(イ) 私たちは、ルカ4章16-18節にあるイエスの手本にどのように倣えますか。

13 レビ記19章3節から、聖なる人になるために必要な別の点も学べます。そこには、(ア)安息日のことが述べられています。クリスチャンは、モーセの律法に従うよう求められてはいないので、毎週の安息日を守る必要はありません。でも、そこから大切な点を学べます。**安息日は、普段の仕事を休んで、エホバへの崇拝に思いを向ける機会**になりました。***安息日や、安息日から学べる点**については、「**ものの塔**」2019年12月号の「**働くのにも、休むのにも『時がある』**」という記事を参照。それでイエスは、**毎週の安息日に会堂**に行き、**聖書を読みました**。（出 31:12-15 エホバはモーセにさらに言った。13 「イスラエル人にこう告げなさい。『必ず私の安息日を守りなさい。それは代々、私とあなたたちの間のしるしである。私エホバがあなたたちを神聖なものとしていることをあなたたちが知るためである。

14 安息日を守らなければならない。その日はあなたたちにとって聖なるものだからである。それを汚す人は必ず死刑にされる。その日に仕事をする人は民の中から除かれなければならない。15 6日間仕事をしてよいが、7日目は完全な休み、安息日である。それはエホバにとって聖なるものである。安息日に仕事をする人は必ず死刑にされる。ルカ4:16-18 イエスは自分が育った土地ナザレに来た。そして、安息日の自分の習慣通り、会堂に入り、朗読のため

に立ち上がった。17 預言者イザヤの巻物が手渡されると、巻物を開いて、こう書いてある所を見つけた。18 「エホバの聖なる力が私の上にある。神が私を選び(d*に油を注ぎ)、貧しい人に良い知らせを告げるようにさせたからである。私は神から遣わされて、捕らわれている人に釈放を、目が見えない人に視力の回復を知らせ、打ちのめされた人を解放し、を読む。」 レビ記 19 章 3 節の「私の安息日を守りなさい」というエホバの言葉について考えると、毎日の生活の中で、エホバについて学んだり伝えたりするための時間を取り分けるよう動かされます。「この点で自分はどうだろうか」と考えてみましょう。エホバについて学んだり伝えたりするための時間をきちんと取り分けるなら、エホバとの絆が強まり、聖なる人となることができるでしょう。

④エホバとの絆を強める

14. レビ記 19 章には、どんな大切な点が繰り返し述べられていますか。

14 レビ記 19 章には、聖なる人でいる上で大切な点が繰り返し述べられています。4 節の最後には、「私はあなたたちの神エホバである」とあります。このような表現は、レビ記 19 章に16回出てきます。そして、十戒の1番目のおきてを思い起こさせます。それは、「私はあなたの神エホバである。……あなたは私以外のどんなものも神としてはならない」というものです。(出 20:2, 3)「私はあなたの神エホバである。奴隸となっていたあなたをエジプトから連れ出した。3 あなたは私以外の(*)どんなものも神としてはならない」聖なる人でありたいと思うクリスチヤンは皆、エホバとの絆を何よりも大切なものとしなければなりません。また、私たちはエホバの証人という名前で呼ばれているですから、聖なる方エホバの評判を傷つけるようなことは一切したくありません。(レビ 19:12)私の名によって偽りの誓いをしてあなたの神の名を汚してはならない。私はエホバである。イザ 57:15永遠に生きて(*住んで)いて聖なる名を持つ、至高の方はこう言う。「私は高く聖なる場所に住んでいるが、打ちのめされた謙遜な人たちと共にいる。謙遜な人たちを元気づけ、打ちのめされた人たちの心を力づけるために」

15. レビ記 19 章にある動物の犠牲についての法令を読むと、どんな気持ちになりますか。

15 イスラエル人がエホバを自分の神とするためには、さまざまなおきてを守る必要がありました。レビ記 18 章 4 節にはこうあります。「私の法規を実行し、私の法令を守り、それに従うべきである。私はあなたたちの神エホバである」。レビ記 19 章には、イスラエル人に与えられた「法令」の幾つかが載せられています。例えば、5-8エホバに共食の犠牲を捧げる場合、受け入れられるように正しい方法で犠牲としなさい。6 犺牲は捧げる日とその次の日に食べ、3日目まで残った物は火で燃やすべきである。7もし3日目に犺牲を少しでも食べたなら、それは不快な物となり、受け入れられない。8 食べた人は過ちの責任を負う。エホバの聖なるものを汚したからである。その人は民の中から除かれなければならない。21, 22 節男性はエホバへの有罪の捧げ物を見物の天幕の入り口に持ってくるべきである。有罪の捧げ物の雄羊である。22 祭司はその雄羊によって、その人のためにエホバの前で贖罪を行い、その人は犯した罪を許されるは、動物の犺牲について述べています。イスラエル人は正しい方法で犺牲を捧げ、「エホバの聖なるものを汚」さないようにする必要がありました。これらの聖句を読むと、私たちもエホバに喜ばれることをしたいという気持ちになります。そして、ヘブライ 13 章 15 節イエスを通して、絶えず神に賛美の犺牲を捧げましょう。神の名を人々に伝えて、言葉(d*唇の実)で神を賛美するのにある通り、エホバに受け入れられる賛美の犺牲を捧げたいと思います。

16. レビ記 19 章のどんな言葉から、神に仕える人たちが周りの人たちと異なっていなければならぬことが分かりますか。

16 聖なる人であるためには、周りの人たちと異なっている必要があります。これは難しい場合があります。クラスメートや同僚や親族から、エホバが悲しむことを行うよう圧力を受けることがあるかもしれません。そうした時に下す決定は、とても重要なものです。どうすれば正しい決定ができるでしょうか。レビ記 19 章 19 節には、「2種類の糸を織り交ぜた服を着てはならない」とあります。イスラエル人は、このおきてを守ることによって、周りの国の人たちとは異なっていることができました。現代の私たちは、綿とポリエステルなど、2種類の繊維を混ぜた服を着てはいけないわけではありません。とはいえ、聖書に反する考え方や行動をする人たちと同じようになることはしません。そうした人が、クラスメートや同僚や親族だとしてもそうです。もちろん、私たちはそうした人たちを愛しています。それでも、エホバとの絆に關係することについては、エホバに仕える者として周りの人とは異なっていたいと思います。これは非常に重要なことです。聖なる人でいることには、神のために取り分けられていることが關係しているからです。

(コリニ 6:14-16 クリスチャンではない人と結び付いて(*くびきで結ばれて)はなりません。それは不釣り合いな関係です。正しいことと不法にいったいどんな関わりがあるでしょうか。光と闇にどんな共通点があるでしょうか。 15 キリストとペリアル(どうしようもない、という意味のヘブライ語に由来。サタンのこと)の間にどんな調和があるでしょうか。クリスチャン(*忠実な人)はクリスチャンではない人と何を共有する(*どんな分け前を持つ)のでしょうか。 16 神の神殿と偶像にどんな接点があるでしょうか。私たちは、生きている神の神殿です。神が言った通りです。「私は彼らの中に住み、彼らの中を歩く。そして私は彼らの神となり、彼らは私の民となる」。ペテー 4:3, 4 かつて皆さんは、恥知らずな行い(*ギリシャ語アセルゲイアの複数形。用語集参照), 激しい欲情、飲み過ぎ、ばか騒ぎ、飲み比べ、忌まわしい偶像崇拜にふけっていましたが、世の人々の好むことを行うのはもう十分です。4 墜落した放蕩の道を皆さんがあなたと一緒に走り続けることはありません。それで人々は戸惑い、皆さんのこと悪く言います)



レビ記 19 章 23-25 節からイスラエル人はどんなことを学んだか。私たちはどんなことを学べるか。 (17-18 節を参照。) *

17-18. レビ記 19 章 23-25 節からどんな大切な点を学べますか。

17 「私はあなたたちの神エホバである」という言葉を聞いたイスラエル人は、エホバとの絆を第一にするよう動かされたでしょう。では、具体的にどんなことを行ったのでしょうか。レビ記 19 章 23-25 節私が与える土地に入って、食物のために木を植えた場合、その実を汚れたもの、禁じられたもの(d*その

包皮)と見なさなければならない。その木は3年間、禁じられたもの(d*)である。実を食べてはならない。24 しかし4年目に、全ての実は聖なるもの、エホバの前で喜ぶためのものとなる。25 5年目に、その実を食べてよい。収穫は増える。私はあなたたちの神エホバであるに答えがあります。(読む。) 約束の地に入ったイスラエル人々は、このおきてにどのように従ったでしょうか。食べ物を得るために木を植えた場合、最初の3年間はその実を食べてはいけませんでした。4年目に実った物は、聖なる所で用いるものとして捧げるために取り分けられました。そして、5年目になってようやく、その実を食べることができました。このおきては、自分のことを一番に考えてはいけない、ということをイスラエル人に教えるものでした。彼らは、エホバが必要な物を与えてくださることを信頼し、エホバへの崇拝を第一にする必要があったのです。そうすれば、イスラエル人はエホバから食べる物を十分に与えられることになっていました。それでエホバは、崇拝を行う場所である聖なる所で捧げ物をする際には、出し惜しみしないようにと教えました。

18 レビ記 19章 23-25節の言葉について考えると、山上の垂訓でイエスが述べた次の言葉を思い起します。「何を食べ何を飲むのだろうかと……心配するのをやめなさい。……天の父は、あなたたちがこうしたもの全てを必要としていることを知っています」。エホバは鳥をさえ養っているですから、当然私たちのことも養ってください。(マタ 6:25, 26) それで、何を食べ何を飲むのだろうかと自分の命のことで、また何を着るのだろうかと自分の体のことで、心配するのをやめなさい。命は食物より、体は服より大切ではありませんか。26 鳥をよく観察しなさい。種をまいたり、刈り取ったり、倉に集めたりはしません。それでも天の父は鳥を養っています。あなたたちはそれよりも価値があるのではありませんか、32 これら全ては異国の人々が必死に求めているものです。天の父は、あなたたちがこうしたもの全てを必要としていることを知っています) 私たちは、エホバが必要な物を与えてくださることを信頼しています。それで、困っている人たちに「憐れみの施し」をし、さりげなく助けます。また、会衆のために喜んで寄付をします。私たちがこのように惜しみなく与える時、エホバはそのことに気付き、必ず報いを与えてください。(マタ 6:2-4) それで、憐れみの施しをするとき、偽善者たちが人から称賛を受けようとして会堂や街路するように、施す前にラッパを吹いてはなりません。はっきり言いますが、その人たちは報いを全部得てしまっています。3 憐れみの施しをするときには、右手がしていることを左手に知らせてはなりません。4 憐れみの施しをひそかにするためです。そうすれば、ひそかに見ている父が報いてくださいます) 私たちは進んで与えることによって、レビ記 19章 23-25節にある大切な教えを理解していることを示せるのです。

19. あなたはレビ記 19章からどんなことを学べましたか。

19 この記事では、レビ記 19章の幾つかの節を取り上げ、聖なる神エホバのようになるにはどうすればよいかを考えました。私たちは、エホバに倣うことによって、「何をするにしても聖なる人である」よう努力していることを示せます。(ペテー 1:15) 皆さんを招いた聖なる方のように、何をするにしても聖なる人であってください) エホバの証人ではない多くの人々は、私たちの立派な行いを見ています。そして、エホバをたたえるようになる人もいます。(ペテー 2:12) 世の人々の中でいつも立派に行動してください。そうすれば人々は、皆さんを悪人だと非難していても、皆さんの立派な行動を見て、検分の日に神をたたえるようになるでしょう) レビ記 19章から学べる点は、まだまだあります。次の記

事では、この章のほかの節を取り上げ、ペテロが勧めているように「聖なる人」となるために、ほかにどんなことができるかを考えます。

どのように答えますか

1. 聖なる人であるとはどういうことですか。

・S04 聖書では、「聖なる」や「神聖さ」という言葉は、**道徳的また宗教的に清いこと**を意味しています。また、**エホバへの奉仕のために取り分けられている**ことも指します。ですから、**道徳的に清い状態**を保ち、エホバに受け入れられる**崇拜**を捧げ、エホバとの**強い絆**を保つなら、**聖なる人である**ことができるのです。

聖書によれば、エホバは最高に聖なる方です。そのことを考えると、**不完全な私たちがエホバとの絆**を持つてゐるというの、本当にすごいことではないか

2. 聖なる人であることについて、レビ記19章からどんなことを学べますか。

・S10 エホバは、イスラエル人に対して「あなたたちは聖なる人であるべきである」と言った後、レビ19:3で「**各自、母と父を敬いなさい**。……私はあなたたちの神エホバである」と言いました。

・S11 親を敬うようにという神からの命令に従うのは重要なことです。ある時イエスは、「**永遠の命を得るには、どんな善いことをしなければなりませんか**」と尋ねられて、すべきことの中に親を敬うことを含めました。（マタ19:16-19）

・S12 エホバは親を敬うよう私たちに命じています。「自分は、この点でどうだろうか」と考えると、「もっとしてあげられたかも」と思うかもしれません。でも大切なのは、これからどうするかです。例えば、**親と過ごす時間をもっと増やす**ことができるでしょうか。**親が必要としている物を買ってあげることができますか**。エホバに仕え続けるよう助けることができますか。話をよく聞いてあげたり、**褒め言葉を掛けたり**することができます

・S13 レビ記19章3節の「**私の安息日を守りなさい**」というエホバの言葉について考えると、**毎日の生活の中で、エホバについて学んだり伝えたりするための時間を取り分ける**よう動かされます。そうするなら、エホバとの絆が強まり、聖なる人となれる

3. エホバとの絆を強めるために、どんなことができますか。

・S14 聖なる人でありたいと思うクリスチャンは皆、エホバとの絆を何よりも大切なものとしなければなりません。また、私たちはエホバの証人という名前で呼ばれているのですから、**聖なる方エホバの評判を傷つける**ようなことは一切したくありません。

・S15 イスラエル人は正しい方法で犠牲を捧げ、「エホバの聖なるものを汚」さないようにする必要がありました。これらの聖句を読むと、私たちも**エホバに喜ばれることをしたい**という気持ちになります。そして、ヘブライ13章15節にある通り、エホバに受け入れられる賛美の犠牲を捧げたいと思う

・S16 聖書に反する考え方や行動をする人たちと同じようになることはしません。そうした人が、クラスメートや同僚や親族だとしてもそうです。もちろん、私たちはそうした人たちを愛していても、エホバとの絆に関係することについては、エホバに仕える者として周りの人とは異なつてみたいと思います。これは非常に重要なことです。聖なる人でいることには、神のために取り分けられていることが関係しているから

・S17 レビ記 19 章 23-25 節は食べ物を得るために木を植えた場合、最初の 3 年間はその実を食べてはいけませんでした。4 年目に実った物は、聖なる所で用いるものとして捧げるために取り分けられました。そして、5 年目になってようやく、その実を食べることができました。

このおきては、自分ことを一番に考えてはいけない、ということをイスラエル人に教えるものでした。彼らは、エホバが必要な物を与えてくださることを信頼し、エホバへの崇拝を第一にする必要があり、捧げ物をする際には、出し惜しみしないようにと教えられる

80 番の歌 「エホバが善い神であること」を味わい知る

^(ペテー 1:15) 皆さんを招いた聖なる方のように、何をするにしても聖なる人であってください。

^1 節 (ペテー 1:15, 16) 皆さんを招いた聖なる方のように、何をするにしても聖なる人であってください。 16 「あなたたちは聖なる人でなければならない。私は聖なる者だからである」と書かれているからです。

^3 節 (テモー 1:11) その教えは幸福な神の素晴らしい良い知らせと一致しており、私はその良い知らせを託されました。

^3 節 (詩 144:15) このようになる民は幸せです！ エホバを神とする民は幸せです！